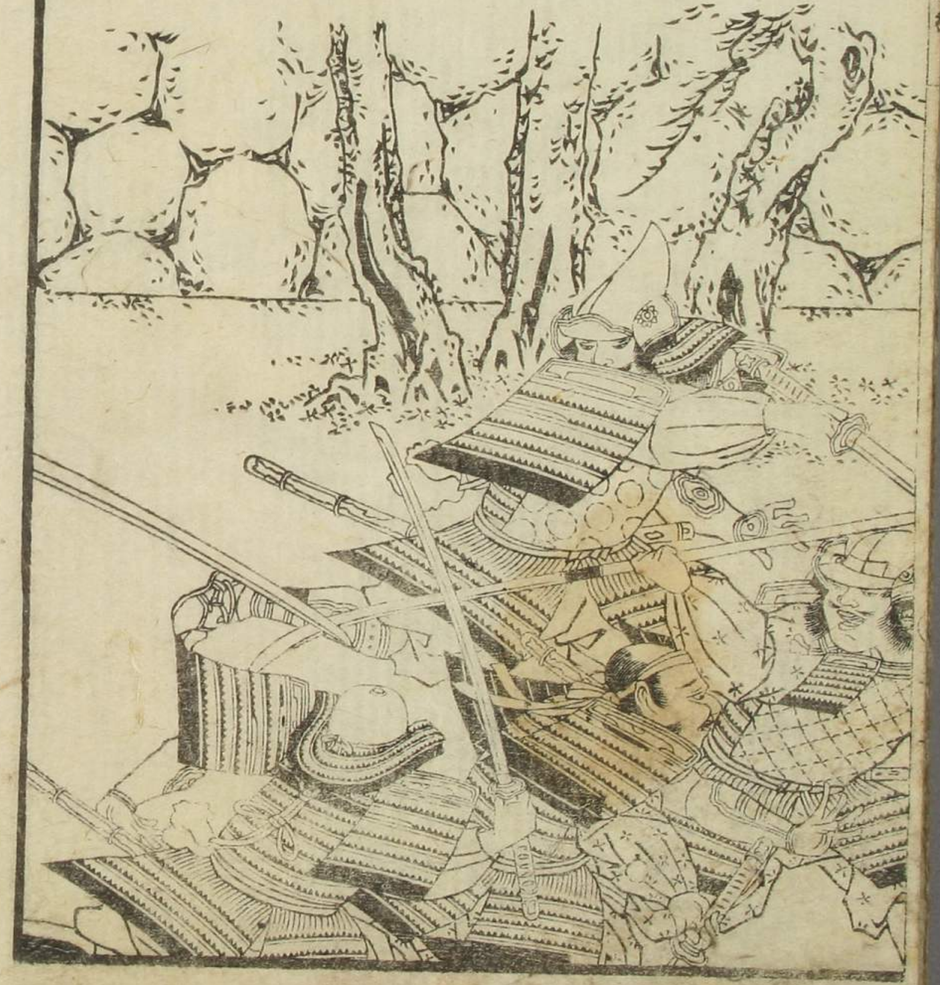
特別
へ13
4311
1

越後高田藩
稲垣家文庫
吉井蔵書
明治三十九年三月ノ故
小田寿吉氏
長男友太郎氏寄贈
<2002-167(1)>

熊井太郎は
矢石をひき
うけて戦ひが
系使うこれ
なるうへいとれ
一人ゆて指和を
ゆるゆるとぬ
とおりひ
歌の中を
きりぬけ
みげるふ
あれすの
あるど
あまさと
大智ゆて
ちつをめ
ーゆく
まさひつ



くしーひらくと
こと二二反
ほの反ふかびて
法ひょこと
の陣かもり
とみ々のまれ
りのぐり
しーてわこと
よりれと
大ねへ云上
あーひよ
どりこ
さーて
平家の
陣へあん
あい様で
きてりる

熊井太郎忠基

鵯越逆落
一ノ谷落城
平家ハ崎落

安徳天皇を
供なーまり
平家の一りん
内大臣を
なしーめとーて
大中納云
参後中ねの
言友の人く
女房ハ
女房きさき
内侍局女房達
ハ死ぬまて
れ死ぬ
のりかえ
ーとうちや
そでーて

義經

平家の侍
熊井太郎
畠俊の従
の小平六ふ
こばりうれ御供
つき落されて
敵ふ首を
とるゝ
さろまのち
太郎ハ
馬アの太郎を
ゑみ
首かきさくんと
ちさまふ
太郎をゑらぶ
ゑもまり
太郎の太の
ゑいを

越谷三郎
直実

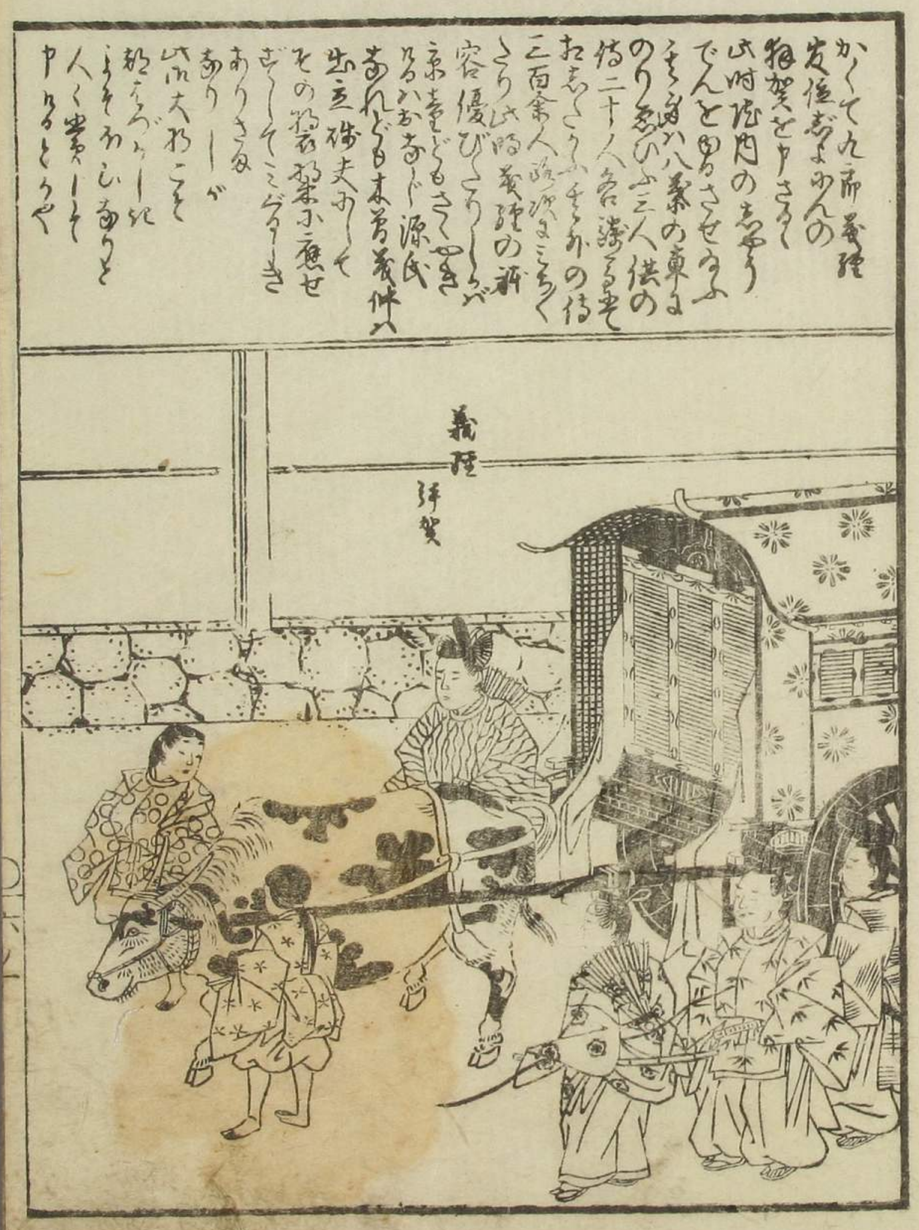
対ちとし太郎を
しゝまけうり
熊谷の郎
直実ハ
あつかりゝ
とまゝき
久し
るよより
ゑんで
義経よ
首対まり
しれむざん
ゑりまる
ちでゑ
ゑりし

敦盛

一條治部
忠頼

能光寺
教理寺死
安田
遠江守
義定

義経
首実検
海存


義経
拝賀

梶原平三景時

さる程に平氏の
大将関八臣
宗盛公八
源氏の武威
よくこうれ
帝都をひき
阿波の民ア
敵員ろそうい
ゆてさぬきの
八島ふれあを
うちへて主上を
安徳奇しまり
一門安きん平
日をおくりれる
おろるふ源氏の
よせそうくき
汐路と奇人奇く
のりこんあとのゆ
あきこの浦よ
名所ばしりれい
平家おとろき
私と用意して
主上をもしめ
一門のこくも
なみとりのり

海上まうかまちく
宗盛のち教経も
ふまろうりて
ふ世ての大将義経よ
まいらせんとて
五人ばりよ十ふをく
よりびいてた奇ち
ふふ矢わやまくす
作成次信が
むね板よあてり
るまり義ろ
紀の九郎義経
とびより
次信が首うんと
ぢーを奇ふ信
紀の九郎義経
射ぬいてをくじは
九郎が首をとりよ
ぬのり路くいかハ
紀の九郎義経
ヤーまりしを教経
と奇のくせーハ
知盛のもらいあて
のり路のお死を
ふーー味方ハ力を
あとさせんが奇ん

かくてさて敵は源氏
もれてる松ぶさもありそきて
芝山は海をとれば平氏
舩を浮はこぎのげて
海上よりでふり
宗盛ゑくくよりそれ
ゐは今日のうせんは
源氏は六勢南ゐ
何とて多勢と見ゑ
あるとてくふはは
のりつるぞそれ由は
ことを内裏をせき
えうるれつるくれ
にかしこさよくの
ゆへはのり強はあは
ありて又貴略
世をこへくり とを
やさんれる
拙ゆれて
平氏のくさり
汀をさして小舟
一艘漕きるこれ
玉出とゆる英雄を
くぐりしてさせ
すつをあひき

那須与市
資高

よせそうしんさめは
新居紀のてく祝儀
黒漆三ノ羽根を
おぼえより扇の
内ハ枝の先ハ日の丸
くきしるる扇をてさせそ
源氏これを射よと
さしきりひきる
大扇これを取ゑ
してを平氏のを市
ひゑるまあふせて
おさしむるまあふ
矢つがをたてと
ぬて要きひり
おきりぬれば扇は
そらよひらめきて
海の中へぞ落さりり
欲も味るさもこれを
ゑてあつまれ
を市とみわるり
より又二の矢を
くさわ引つぐ
新居紀のをぐ
むを板をせがひのそ
ゐを一しりげかも
を市ぐ弓勢は時ハ
あるをれしり

扨も平盛我も
利あるべしとて
ちからをつくしたりけ
るとぞ
さてまたあさ
ましきくせものかな
その頃彼の城良
ふかりしかりければ
二位の尼殿今
宮の四宮今
かぎりありとそ
ねりいろの二つきた
うきたる白たえの
そばとりあげ
宝剣とさいし
神璽をひき
ぬきこそ安徳
帝をいだき
きたりもせ海の中へ
赤ハの女院
これはつづいて
ゆくあり
あるとれあり
扨源平合戦ふく
我しは宗盛
義経ちからくらし

清宗ちからくらし
やすもとしてはなはだ
いとのこと義経
能まよりけて
舟から上大おの
五郎そおりける
扨のとれる教経
りふをうきりと
おりもれておりふ
まくみたくくき
ふひしゝが義経を
こたりもどされぬ
おの見ようきこそ
大おあくあと義経
めがけ飛でくる義
きこゆるもやうぎ
ひゞめつの大おの
舟へそくとびと
こへ人が教経今ハ
久まつゞとあきの
ちからはてあるき
よのこと海底
へそ落入ける

平家のうきまいらずも
して義経をすんと
むらんどもすぐそて
あくしてうのびて
るが後後のまの行人
朝のあくとふりの
大力出て義経を
あてしてうま
せをやとおりい
舟のふくとえ
者をうさくいて
小家まおのり
ぬまとるけ
しきも奇く
えりしこと
あるきしが
いせのうたれを
さとりて乱人
小家をといる
み縁のもだれ
しのまれら
とうそとやとう
れぬうしこまって
ら海くをびの
ねくいろてあくぶ足を
りてあ中へりの首
うきまろておまれが
大おぎようんあさうす
赤羽作りの右刀をうりる
ひの小家を